

ハハもい通信

小笠原村環境課 04998-2-3111 小笠原諸島返還50周年

ハハジマ森の道プロジェクト始動！

母島には、湿性高木林の中に希少な動植物が生息・生育し、世界自然遺産として評価される貴重な自然があります。しかし、遺産地域内の森は厳正に保護されているため、村民や来島者が気軽に自然を見る機会が限られています。

そこで、今年の返還50周年を契機に、小笠原の自然を身近に感じられる場と機会の創出を図り、静沢の村有地で小笠原固有の樹木「オガサワラグワ」のほか、母島産の在来の植物が見られる道づくりを村民参加・協働で始めます。



予定地



道づくり体験会 開催

(平成30年1月21日)

イベント第1弾として、予定地の遊歩道を“近自然工法”により補修する道づくり体験会を実施し、参加者10名、スタッフ9名が参加しました。

道づくりの講師である岡崎さん（北海道山岳整備）指導のもと、老朽化した木製の階段を撤去し、木と石を使って、歩きやすく自然になじむ階段を作り直しました。

最初は遠巻きに見ていた参加者も、手を動かし始めると夢中になって石を詰めていました。

今はギンネムなどの外来樹木が多い道ですが、村民の皆さんと少しずつ下地作りを進めて、11月に在来樹木の植栽を実施することを目標にしています。



趣旨説明



かすがいで木枠を固定



デモンストレーション



仕上げに砂利を



母島にて順化中の
母島産オガグワのクローン苗



かけやで木を固定



歩きやすい道が完成



ハハもい通信

No. 2



小笠原村環境課 04998-2-3111 小笠原諸島返還50周年

予定地のこと

「ハハジマ森の道プロジェクト」の予定地は、母島の静沢集落の北側に位置する避難路を兼ねた散策路沿いです。かつては農地として利用されていたようですが、現在はギンネムやササを中心とした外来樹が繁茂する単調な森となっています。



戦前



現在

講演会「母島の植物とハハジマの森づくり」

(平成30年3月6日)

同プロジェクトのアドバイザーとして東京農業大学の田中信行教授（科学委員）をお招きし、講演会を開催しました。

会では、村からプロジェクトを紹介するとともに、先生から母島の植物や森のことなどをお話いただきました。その後、皆さんとの意見交換を行い、「ウグイスやメジロはササの中に巣を作るため、作業時期は配慮してほしい。」、



講演会の様子

「集落にも在来種が植栽されているため、うまくいっている種を参考にするとよいのでは。」、「植栽後の管理も考えながら進めてほしい。」などの意見が出されました。

また、田中教授が来島中には、予定地のギンネムやササ、シマグワ、アカギの一部を枯らすため、関係者でドリルで穴をあけ、薬剤を注入しました。



田中教授による予定地視察



ギンネムに薬剤を注入



ササにも薬剤を注入

春の地ならし体験会 開催

(平成30年5月12日)

今秋のオガサワラグワや在来樹の植栽に向けて、予定地の環境づくりと皆さんの雰囲気づくりを図った「春の地ならし体験」を実施し、参加者7名、スタッフ5名に参加いただきました。まずは作業指導のスタッフから作業の進め方を説明してもらいました。それから枯れたギンネムの伐採と片付けを行いました。3月にあらかじめ枯らしておいたギンネムとシマグワを作業指導のスタッフ2名がチェーンソーでどんどん伐っていき、それを参加者の皆さんで片付けました。ギンネムの幹はそれほど太くないものがほとんどでしたが、何十本もの数があったため、伐るのも片付けるのも大変な作業となりました。少人数ながらも、時々、水分補給をしながら、チェーンソー操作の方をはじめ、皆さんの多大なはたらきにより、予定通りの範囲の伐採と片付けを終えることができました。



作業方法の説明



デモンストレーション



伐った材を運搬



材の一部は減容場へ



伐採前



伐採中



この子が大人になる頃には...



材で簡単な土留めづくり





ハハもい通信

No. 3



小笠原村環境課 04998-2-3111 小笠原諸島返還50周年

夏の地ならし体験会

(平成30年8月25日)

春に引き続き、植樹のための準備イベントとして、「夏の地ならし体験」を実施し、参加者4名、スタッフ5名に参加いただきました。

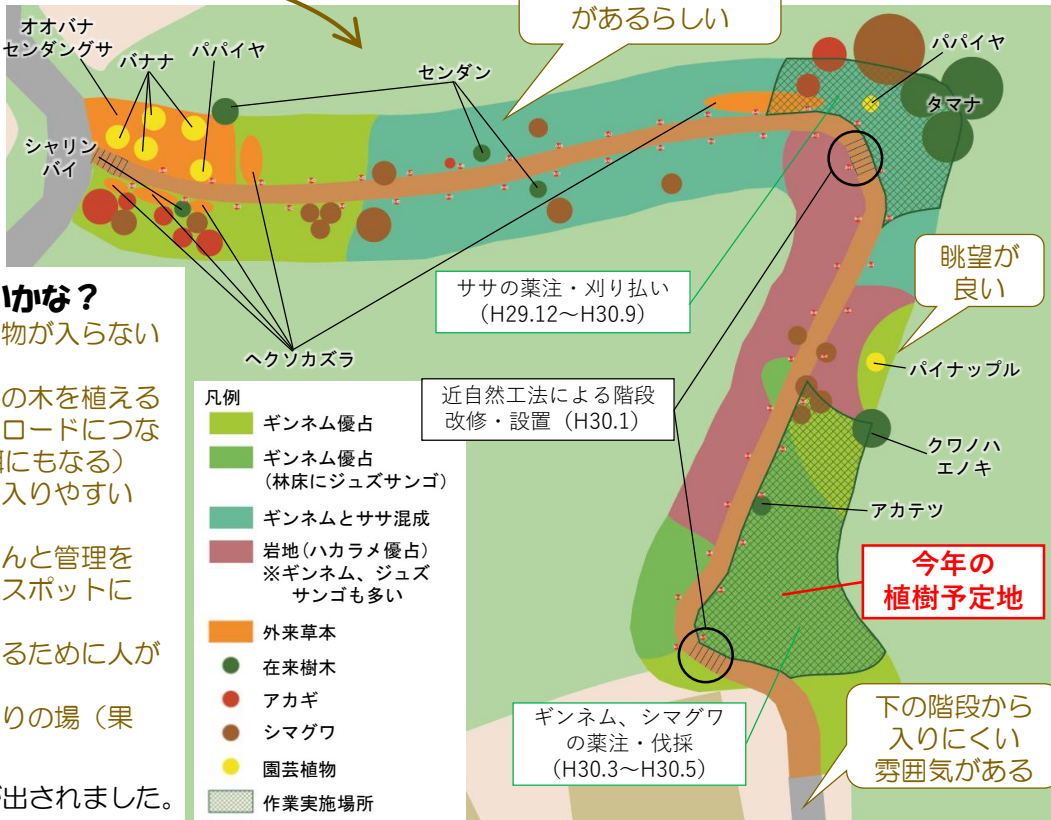
まず、予定地を道に沿って5mごとに区切り、参加者それぞれで区画内の植物を調べマップ化し、最後に1つにつなぎ合わせました。

その植物マップを見ながら、皆さんに、この森の将来像を考えてもらいました。

そして最後に、森の名前を「母島の森」としました。



出来あがった植物マップを見ながら話し合い



どんな森になるといいかな？

- 木が育つまで、他の外来植物が入らないようにシダを増やしたい
- 海が眺められるように低めの木を植える
- 園芸植物は残してフルーツロードにつながるように (コウモリの餌にもなる)
- 入口に看板・地図があると入りやすい
- 手すりがあると歩きやすい
- 倒木、雑草が多いのできちんと管理を
- ベンチを置いて気軽な散策スポットに
- 学校授業に活用してほしい
- ワラビを植えると採りに来るために人が訪れるかもしれない
- 学びの場 (在来樹木) と実りの場 (果樹・ハーブ)

など、たくさんの意見が出されました。

農大ボランティアによるササの刈り払い

(平成30年9月1日)



ササの刈り払い作業



ギンネムも伐採



暑い中でしたが作業終了



ハハもい通信

No. 4
50th ANNIVERSARY
1968-2018

小笠原村環境課 04998-2-3111 小笠原諸島返還50周年

植樹記念講演会

(平成30年11月9日)

2日後の植樹会を前に、アドバイザーの田中教授による講演会を開催しました。まずは村から、母島と父島での森づくりプロジェクトの進捗状況を紹介しました。次に田中教授から「衰退する在来樹と在来林の再生」と題した講演を行っていただきました。参加者からは「防風林に適した種は何か(→タマナと回答)」、「オガグワに多様性はあるのか(→母島内だけでもいくつかの系統ありと回答)」、「ネズミは種子分散に寄与しないのか(→食害影響の方が大きくなってしまうと回答)」などの質問が挙がりました。また、田中教授からは、植栽配置や植栽方法、その後の管理や今後の方針などのほか、オガグワのクローン苗による増殖は第1段階として捉え、次の段階では有性繁殖により遺伝子の多様性が増すとよいとのアドバイスをいただき、実際に苗の植栽も行っていました。



村からプロジェクトの紹介



田中教授と参加者の意見交換



田中教授の記念植樹

植樹会①

(平成30年11月11日)

1月の道づくりから始まった森づくりイベントの集大成として、「植樹会」を実施し、これまでで最も多い参加者23名(うち子ども9名含む)、スタッフ7名に参加いただきました。子どもたちの記念にと参加した親子も多く、にぎやかなにあっていう間に植えられました。



まずは今の母島の森を紹介



苗の植え方をレクチャー



親子で仲良く植樹



大人たちは急斜面に植樹



植栽後にみんなで記念撮影

植樹会②

(平成30年11月11日)

同イベントでは、オガサワラグワ21本、ヒメツバキ6本、タマナ10本の植樹を行いました。

今後は、苗の保育とともに、ウラジロエノキやアカテツ、センダンなどの在来樹木の実生をうまく生長させながら、森づくりを進めます。



植樹会後 (平成30年11月)